令和8年度第1回大阪府スポーツ推進審議会における意見整理表

資料2

委員からのご意見		答申案への反映
A委員	障がい者スポーツについて、一人で運動・スポーツの場所に行けないなどの制約を受ける方がたくさんいる。	第3章 Ⅰの柱 3「スポーツ環境づくりによる共生社会の実現共生社会の実現」 (ア)パラスポーツの推進
	財源の確保が難しいのは感じているが、何らかの形で財源を確保していただくことを要望する。	第5章 スポーツ施策の推進体制等の強化 3 財源の確保
	大阪の特徴として、プロスポーツや施設のような強みがある。	第2章 計画の基本的な考え方 Ⅰ めざすべきスポーツ都市像
	大規模大会は街に活気を与える。	第4章 2の柱 Ⅰ 大規模スポーツイベント等の開催による賑わい創出 (1)現状・課題
	国民スポーツ大会は広域開催も視野に入れている。	第3章 Ⅰの柱 3「スポーツ環境づくりによる共生社会の実現共生社会の実現」 (イ)地域でスポーツを楽しむ環境づくり
	民間とタイアップしながら大きな大会を開催していくことを具体的に記載していただきたい。	第4章 2の柱 Ⅰ 大規模スポーツイベント等の開催による賑わい創出 (2)施策の方向性
B委員	クラブ顧問に専門性がなければ、大会会場でどうしていいかわからないことが負担を感じる要因の1つとのこと。そういう方には審判をお願いすることは無理でも、大会の進行で支えてもらっている。	
C委員	トップアスリートの派遣について、授業で実施されている種目についての選手派遣が中心との印象を受けた。冬のスポーツとしてスキーやスピードスケートもある。スポーツ全体を見ていただき、学校で実施していない種目へも門戸を広げることでスポーツ人口の増加につながるのではないか。	
D委員	具体的に実現に向けてどのように取り組むかが大切。これまでの計画は一般の府民からは遠いものに感じる。誰にどのように知らせていくのか、どのように情報発信するのか、具体的に考えていただければと思う。	第5章 スポーツ施策の推進体制等の強化 Ⅰ 情報発信の強化
	連携体制の強化について、限られた財源をどう使っていくか。市町村と連携していくことや、府の施策に健活10などもあるので、一緒にやっていくなど、広げていくといいのではないか。	第5章 スポーツ施策の推進体制等の強化 2 連携体制の強化
	人材育成の視点をもう少し記載するといい。	第3章 Ⅰの柱 3「スポーツ環境づくりによる共生社会の実現共生社会の実現」 (イ)地域でスポーツを楽しむ環境づくり
E委員	課題抽出の記載はされているが、第3次計画の評価はされていないように感じる。	第1章 第4次大阪府スポーツ推進計画について 2 計画の策定の視点 (3)第3次大阪府スポーツ推進計画の成果と課題
	第4期スポーツ基本計画との整合性を取っている部分が見えづらい。	全体を通して整合性を図りながら作成
	大阪らしさを計画のどこで出して、ターゲットを誰にするのかが大事。	第2章 計画の基本的な考え方 Ⅰ めざすべきスポーツ都市像
	ウェルビーイングの向上について、2の柱ではスポーツ振興課の施策でしか受けていないように感じる。	第2章 計画の基本的な考え方 Ⅰ めざすべきスポーツ都市像
	アマチュアスポーツに関する競技力向上について記載されていない。	第3章 Ⅰの柱 3「スポーツ環境づくりによる共生社会の実現共生社会の実現」 (イ)地域でスポーツを楽しむ環境づくり
	「あつまる」「つながる」の視点について、大阪のまちづくりの視点が欠けている。	第4章 2の柱 3「スポーツによる活力あるまちづくり」(2)施策の方向性
	アリーナ建設について民間投資はされているが、府としても一定の投資の観点が必要であり、この概念について記載されていない。第4期スポーツ基本計画には、スポーツコンプレックスについて記載されている。	第4章 2の柱 3「スポーツによる活力あるまちづくり」(1)現状・課題
	中学校の部活動について、広域行政として支えていく観点を盛り込んでいただきたい。	第3章 Ⅰの柱 1「ライフステージに応じた機会の提供」(2)施策の方向性 (ア)子ども期
	数値目標については、メダルの数を目標にするなどの選択肢があるのではないか。府として競技力をどのように考えているのか記載する必要がある。	第3章 Ⅰの柱 3「スポーツ環境づくりによる共生社会の実現共生社会の実現」 (イ)地域でスポーツを楽しむ環境づくり
	選手強化費について、府が出せないのであれば、ナショナルトレーニングセンターの大阪誘致なども考えられる。	
	教育庁とスポーツ振興課が同じ事業をしているので整理してはどうか。	第5章 スポーツ施策の推進体制等の強化 2 連携体制の強化
	スポーツインテグリティについて記載が必要ではないか	第3章 Ⅰの柱 3「スポーツ環境づくりによる共生社会の実現共生社会の実現」 (1)現状・課題
	熱中症対策について記載が必要ではないか	第3章 Ⅰの柱 2「スポーツに親しむ機会の創出による心身の健康」 (1)現状・課題
	スポーツ施設に対するデータは、防災として有益なので共有をお願いしたい。	
	用語集は一番後ろに掲載するほうがいい。	参考資料 用語集
F委員	府内自治体間でスポーツ参画率に差があるのだろうと思うが、それぞれの自治体ごとの強みがあるのではないか。	第5章 スポーツ施策の推進体制等の強化 2 連携体制の強化
	学校が地域の方に運動・スポーツの場として運動場を開放できると「する」「みる」「ささえる」もバランスよくなるのではないか。	Ⅰの柱 3「スポーツ環境づくりによる共生社会の実現共生社会の実現」 (イ)地域でスポーツを楽しむ環境づくり
G委員	東京だと無料で使える競技場が充実していた。大阪にも誰でも借りて自由に使える施設が増えたらいいと思う。	Ⅰの柱 3「スポーツ環境づくりによる共生社会の実現共生社会の実現」 (イ)地域でスポーツを楽しむ環境づくり